

令和元年度 学校評価自己評価表(最終評価)

ミッション ○県北の中心校・リーディングスクールとしての誇りと自覚をもつ学校 ○保護者や地域から信頼を得る学校	ビジョン 学校教育目標 「夢を持ち 志を立て やるべきことをやりきる生徒の育成」 - 知・徳・体の育成の土台になる、『挨拶・姿勢・一生命・思いやり』の精神が貫かれた学校 - 【重点】不登校生徒の減少	三次市立十日市中学校
---	--	------------

評価計画					自己評価			学校関係者評価			改善計画				
b 中期経営目標	担当	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
						g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
自信と意欲	教務 生徒会 総務	自己有用感の高い生徒の育成【自己有用感】	・総合的な学習の時間を中心に地域貢献・異学年交流を実施する。	・「自分なりに努力したことがうまくいって、うれしかったことがありますか。」の項目における肯定的評価の割合 (i-checkアンケート)	95%	93.5%	88.6%	93.5%	B	【1年】85.7%(全国平均比-4.8%)、【2年】92.0%(+3.1%)であった。昨年度に続き、2年生の成功体験が高くなっている。丁寧な指導と肯定的評価の成果が表れていると考えられる。	○			1年生の評価割合が全国平均比-4.8%なのが気になるが、2年生の評価が92.0%と高い数字なので期待したい。	自分で考え、自分でやりきったと思える活動に取り組む。生徒数が多いので、全校の活動では上級生は達成感を味わいやすいが、下級生はフォロー役になりやすい。下級生が達成感をもてるよう、学年での活動を充実させるよう工夫していく。
			・1人1役(係・委員)の仕事で、意欲をもって実行できるように生徒相互による評価をする。	・「自分なりに努力したことがうまくいって、うれしかったことがありますか。」の項目における肯定的評価の割合 (i-checkアンケート)	95%	93.5%	88.6%	93.5%	B	【1年】85.7%(全国平均比-4.8%)、【2年】92.0%(+3.1%)であった。昨年度に続き、2年生の成功体験が高くなっている。丁寧な指導と肯定的評価の成果が表れていると考えられる。	○			1年生の評価割合が全国平均比-4.8%なのが気になるが、2年生の評価が92.0%と高い数字なので期待したい。	自分で考え、自分でやりきったと思える活動に取り組む。生徒数が多いので、全校の活動では上級生は達成感を味わいやすいが、下級生はフォロー役になりやすい。下級生が達成感をもてるよう、学年での活動を充実させるよう工夫していく。
			・地域との連携をしたボランティア活動を推進する。	・「自分なりに努力したことがうまくいって、うれしかったことがありますか。」の項目における肯定的評価の割合 (i-checkアンケート)	95%	93.5%	88.6%	93.5%	B	【1年】85.7%(全国平均比-4.8%)、【2年】92.0%(+3.1%)であった。昨年度に続き、2年生の成功体験が高くなっている。丁寧な指導と肯定的評価の成果が表れていると考えられる。	○			1年生の評価割合が全国平均比-4.8%なのが気になるが、2年生の評価が92.0%と高い数字なので期待したい。	自分で考え、自分でやりきったと思える活動に取り組む。生徒数が多いので、全校の活動では上級生は達成感を味わいやすいが、下級生はフォロー役になりやすい。下級生が達成感をもてるよう、学年での活動を充実させるよう工夫していく。
生徒の自信と意欲を高め、学力を向上させる	研究部	主体的な学びによる、学力の定着と向上【主体性】	★基礎基本を徹底し、各種学力テストで全国・県平均点以上を目指すとともに、通過率40%未満の生徒の減少に努める。	・三次市学力到達度検査における平均点	全教科 全学年 全国平均	未実施	1年 3教科 2年 3教科	60.0%	C	【1年】国語70.8%(全国平均比+3.6)、社会51.7%(-1.1)、数学58.8%(-2.1)、理科51.9%(+0.9)、英語58.0%(+1.6)【2年】国語70.0%(+1.8)、社会54.9%(+1.1)、数学56.7%(-0.9)、理科57.4%(+3.8)、英語54.9%(-0.5)であった。全学年、全教科、概ね全国平均に近い値となっている。しかし、40%未満の生徒の割合が高く、学力の底上げが必要になる。	○			この数字だけで評価するのは難しいが、やはりリーディングスクールであるならば、しっかり数字を意識して上をめざしていただきたい。	学習課題を提出することに着目した指導から、学力向上を意識した取組にシフトしていくことが必要になる。次年度へ向けて、課題の提出方法や学習記録簿の改善などに取り組んでいく。
			・協同学習を積極的に取り入れた授業改善を進め、生徒の思考力、判断力、表現力を育成する。	・三次市学力到達度検査における40%未満の生徒の人数	各学年 各教科 5人以下	未実施	各学年 各教科 平均 21.3人	23.5%	D	通過率40%未満の生徒の割合は、1、2年全体で、国語6.3%、社会24.8%、数学24.8%、理科22.3%、英語25.7%であった。(昨年度の割合の平均16.9%)約1/4の生徒が通過率40%未満となっている。生徒にとって家庭学習の目的が課題を提出することになっており、形式的な作業になっていると考えられる。	○			約4分の1の生徒が通過率40%未満なのが心配だ。自分のための学習を定着させていただくように、さらに意欲的な学習を望みます。	
			・生徒が計画的に取り組める学習課題の設定をする。	・「夢中になった、勉強がおもしろいと思った、やる気が出た、という記憶に残っている授業がありますか」の項目における肯定的評価の割合 (i-checkアンケート)	70%	73.4%	66.5%	95.0%	B	【1年】62.2%(全国平均比-9.1%)、【2年】70.8%(+5.5%)であった。時間帯や前後の授業の関係など、切り替えが苦手な生徒が上手に対応できていないことで、よい形で授業が始まりにくいことも要因にあげられる。	○			1年生が全国平均比-9.1%なのが気になる。生徒のやる気を引き出していただけるよう工夫をお願いしたい。	学習指導要領の改訂にあわせ、主体的・対話的な学びをより進める。まずは、生徒が疑問をもてる授業、小グループでの活動がある授業をめざす。
規律と安心	生徒指導部	落ち着いた生活でできる学校環境をつくる	いつでもどこでも通用する、主体的な行動・態度の徹底	・「あなたのクラスでは、みんなが掃除当番や係の仕事で、責任をもってしていますか。」の項目における肯定的評価の割合 (i-checkアンケート)	90%	81%	71.2%	79.1%	C	【1年】62.2%(5月比-22.5%)、【2年】73.5%(+0.7%)、【3年】77.9%(-8.3%)であった。掃除時間の始まりにゆとりを持たせたが、掃除への意識を高めることにつながらなかった。職員の数に比べ、掃除場所が多いため、掃除をきちんとできない生徒が増えたと考えられる。	○			何事にも真剣に取り組むことの大切さを、もっと厳しくまたプレの無い指導を望みます。	教員主体の取組ではなく、生徒主体の取組になるように、生徒会を中心に掃除や係の仕事の取組について考えさせる。また、生徒が達成感をもてるように教員がアドバイスをし、成功体験をさせたい。
			共感的な人間関係の育成	・「つらいことや、こまったことがあったとき、なんでも本音で相談できる友だちがいますか。」の項目における肯定的評価の割合 (i-checkアンケート)	90%	83%	84.0%	93.3%	B	【1年】78.6%(5月比-7.1%)、【2年】84.1%(+7.8%)、【3年】89.3%(+1.7%)であった。2、3年生は生徒同士の関わりが増え、自分たちで行事など進めていく意欲が高まったと考えられる。1年生では、自分たちで考える場が少なく、自分たちで考えて行動するより、教師にやられている感があると考えられる。	○			学期に1回、教育相談週間に担任との面談を行ったが、生徒の様子や状況によって可能な限り面談を行っていく必要がある。また、学活などで学級の絆が深まるような取組を仕組んでいく。	
			生徒会活動による絆づくりと居場所づくり	・「今のクラスは好きですか」の項目における肯定的評価の割合 (i-checkアンケート)	80%	89%	84.6%	105.7%	A	【1年】75.5%(5月比-13.3%)、【2年】91.2%(+5.2%)、【3年】87.0%(-3.8%)であった。2、3年生は生徒会の入れ替わりもあり、学級のことを考える機会が多かったため、数値が高いと考えられる。1年生については、生徒会活動で学級のことを考える意識が低いことが課題である。	○			生徒会を中心に取組を行ったが、学級によってはただ言われているからやっている生徒が多い。取組を行っている理由や意味などをしっかり把握させ、充実した活動になるようにさせる。	
健康	生徒指導部	生活リズムの確立と食育の推進	・委員会を活用した、食に関する指導を行う。	・「朝食を毎日食べていますか」の項目における肯定的評価の割合 (i-checkアンケート)	95%	94%	89.6%	94.3%	B	【1年】86.7%(5月比-6.2%)、【2年】91.2%(-2.8%)、【3年】90.8%(-3.8%)であった。ほとんどの生徒が朝ご飯を食べて学校に来ているが、生活に慣れてきて、朝食を食べずに登校している生徒がいると考えられる。	○			100%は難しいと思いますが、朝食を取らない生徒は限られると思いますので、家庭とも協力して100%をめざしていただきたい。	生徒会の生活委員会を利用し、朝食の大切さを全校に呼びかける取組を行っていく。また、通信などで保護者に呼びかけ、朝食をとらない生徒を減らしていく。
			・生活三分割による生活リズムの見直しを図る。	・「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」の項目における肯定的評価の割合 (i-checkアンケート)	80%	80%	80.9%	101.2%	A	【1年】70.4%(5月比-5.1%)、【2年】82.3%(+3.5%)、【3年】90.1%(+7.0%)であった。毎日同じ時刻に寝ている生徒が大半であるが、遅刻する生徒が増えたことから、寝る時間についても生活三分割を利用し、指導していく必要があると考えられる。	○			生活リズムが一定である生徒が多いことがわかるが、時間についてはわからないことがある。何時に寝ているのか、何時に起きるのかを生活ノートの生活三分割から把握し、気になる生徒には声をかけていくよう教員で取組んでいく。また、PTAと連携し、保護者への呼びかけを行っていく。	

【自己評価 評価】
 A：100≦(目標達成)
 C：60≦(もう少し) < 80

B：80≦(ほぼ達成) < 100
 D：(できていない) < 60

【外部評価】
 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。
 ハ：わからない。